

ごみのゆくえを知ろう!! 「夏休み処分場見学会」参加者募集!!



昨年の見学会の様子

今年も夏休み恒例の処分場見学会を開催します。自分たちが出したごみがどのように処理されているのか、処分場やエコセメント化施設、清掃工場に行って確かめてみませんか?

＜日時・行程＞

第1回 平成20年8月5日(火)
8:30 JR立川駅集合 → 小平・村山・大和衛生組合清掃工場 → 昼食 → ニッ塚処分場 → 谷戸沢処分場 → 17:00 JR立川駅解散
*集合・解散場所:立川通り曙町2交差点付近

第2回 平成20年8月22日(金)

9:00 JR立川駅集合 → 八王子市吹清掃工場 → 昼食 → ニッ塚処分場 → 谷戸沢処分場 → 17:00 JR立川駅解散
*集合・解散場所:立川通り曙町2交差点付近

*各回とも、全行程大型バス2台で移動

＜参加資格＞

親子参加 多摩地域在住の小学校4、5、6年生と保護者(18歳以上)の2人1組(厳守)
一般参加 多摩地域在住者または在勤・在学者(中学生以上)で、個人、または2人1組(厳守)

＜参加費＞

1人500円(昼食代)
*親子で参加の場合
1,000円の負担となります。
*当日お支払いください。

＜募集人員＞

＜申し込み方法＞

往復はがきに「見学会参加希望」と明記の上、参加される方全員の①氏名 ②年齢 ③住所 ④電話番号(携帯電話をお持ちの方は、携帯電話番号も)⑤希望日を記入し、お送りください。
*多摩地域にお住まいでない方は、通勤・通学先もご記入ください。

＜締め切り＞

各回とも7月16日(水)到着分
*応募者多数の場合は、抽選により決定します。
*結果は、返信はがきでご連絡いたします。

＜申し込み・問い合わせ先＞

〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内
東京たま広域資源循環組合「見学会」係

Information

循環組合の動き

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 3月 26日(水) | 谷戸沢処分場水質等調査結果公表 (平成19年度第3四半期分) |
| 3月 26日(水) | ニッ塚処分場水質等調査結果公表 (平成19年度第3四半期分) |
| 3月 26日(水) | エコセメント化施設水質等調査結果公表 (平成19年度第3四半期分) |
| 5月 15日(木) | ニッ塚処分場敷地内大気中ダイオキシン類調査実施 |
| 6月 6日(金) | 第19回循環組合技術委員会 |
| 6月 20日(金) | 第23回環境保全調査委員会 |
| 6月 24日(火) | 第22自治会ニッ塚処分場対策委員会 |
| 6月 26日(木) | 第3自治会谷戸沢処分場監視委員会 |

【谷戸沢処分場・ニッ塚処分場・エコセメント化施設水質等調査】
谷戸沢処分場・ニッ塚処分場・エコセメント化施設では、日の出町および地元自治会と締結した公害防止協定に基づき、厳格な調査を定期的に実施。周辺環境に影響を及ぼさないように管理している。調査結果はホームページで公表。

【ニッ塚処分場敷地内大気中ダイオキシン類調査】
平成9年から処分場敷地内の4地点を対象に年4回、大気中ダイオキシン類の調査を実施している。調査結果はホームページで公表。

●「環境報告書2008」を公表

循環組合では、環境方針に基づいて平成19年度に取り組んだ、環境保全に向けた取り組みの内容や成果を「環境報告書2008」としてまとめました。下記の循環組合のホームページで閲覧、ダウンロードが可能です。

「環境報告書2008」は、ホームページで公表しています。ぜひご覧ください。
<http://www.tama-junkankumiai.com>

新理事 就任の挨拶

エコセメントの活用を進めています

新理事：加藤 育男 (福生市長)



日頃より、当市のごみ処理につきまして、日の出町の皆様にはご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
当市では4月に新庁舎が完成したところですが、新庁舎では東京たま広域資源循環組合で製造いたしましたエコセメントの製品を使わせていただいております。外周の緑石や歩行スペースだけでなく、花の植栽用プランターもエコセメントの製品です。今後も循環型社会の実現を目指すとともに、組合の理事として一層の努力を重ね、その役割を果たしてまいります。よろしくお願い申し上げます。

日の出だより

「2008 ひのでふるさとふれあい夏まつり」を開催

「ひのでふるさとふれあい夏まつり」は、郷土芸能、盆踊り、花火の三部構成で展開する、住民参加型のおまつりです。今年は盆踊りに「東京五輪音頭」を取り入れるなど、オリンピックムーブメントを推進します。

■日 時/7月26日(土)16時～21時 荒天の場合は27日(日)に順延
■会 場/日の出町立平井中学校
■交通アクセス/JR青梅線福生駅よりバス約20分
JR五日市線武蔵蔵戸駅より徒歩約20分
■問い合わせ先/ひので夏まつり実行委員会事務局(日の出町役場企画財政課企画係)
TEL.042-597-0511 内線(312)
*当日は、混雑が予想されます。公共交通機関のご来場をお願いします。

▲伝統芸能にみられるひととき
▲盆踊りの様子
▲コンピューター制御による音と光を融合させた「HANABIマジック」。昨年のテーマは「風林火山」

▼お土産におすすめの携帯ストラップ

■開催時間/10時～15時30分(受付は15時まで)
■休館日/月・火定休(祝日の場合は翌日または翌々日)、年末年始
■入館料/一般200円、高校生・65歳以上100円、中学生以下無料
■住 所/東京都西多摩郡日の出町大久野5270番地
■電 話/042-597-7323
■駐車場/あり(バスの場合は事前予約)

東京都からのお知らせ

●新たな「東京都環境基本計画」を策定しました

「東京都環境基本計画」は、本年2月29日に東京都環境審議会より「東京都環境基本計画のあり方について」の答申を受け、旧計画(平成14年1月)を抜本的に見直し策定したものです。今後、本計画で示す施策の目標や方向に基づき、都の環境行政の更なる展開を図っていきます。

●新たな東京都環境基本計画のポイント

- ◆東京が直面する環境問題についての新たな認識
 - 1 気候変動の危機の顕在化
 - 2 環境汚染に対する予見的かつ継続的な対応の必要性
 - 3 より質の高い都市環境の形成による都市の魅力の向上
- ◆東京が目指すべき都市の姿と果たすべき役割
 - 少ないエネルギー消費で、快適に活動・生活できる都市を目指し、東京から、世界の諸都市の“範”となる持続可能な都市モデルを発信していく。

◆分野別施策

- 1 人類・生物の生存基盤の確保
 - 2 健康で安全な生活環境の確保
 - 3 より快適で質の高い都市環境の創出
- ▼詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.metro.tokyo.jp/INET/KEIKAKU/2008/03/70i3v200.htm>

ホームページをご覧ください <http://www.tama-junkankumiai.com>

循環組合では、処分場の敷地内や周辺の土壌、水質など環境調査の結果をホームページで公表しています。ぜひアクセスしてみてください。

発行・問い合わせ先
TEL : 042-385-5947 FAX : 042-384-8449

「たまエコニュース」の内容やごみ処理に関するお考えなど、みなさまのご意見をお手紙、FAX、電子メールでお聞かせください。
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内 東京たま広域資源循環組合「たまエコニュース」係
[メールアドレス] sjkumiai@tama-junkankumiai.com

たまエコニュース

3月号 MAR
6月号 JUN
9月号 SEP
12月号 DEC

VOL. 46
JUN. 2008

年4回・最終日曜日発行
*掲載内容と時期により、発行日が前後する場合があります。

発行：東京たま広域資源循環組合
[事務局] 〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館内
TEL:042-385-5947 FAX:042-384-8449

循環組合組織団体
八王子市 立川市 武蔵野市 三鷹市 青梅市 府中市 昭島市 調布市 町田市 小金井市 小平市 日野市 東村山市 国分寺市 国立市 福生市 狛江市 東大和市 清瀬市 東久留米市 武蔵村山市 多摩市 稲城市 羽村市 西東京市 瑞穂町
循環組合は組織団体からの負担金で運営されています

「循環組合」とは
ニッ塚処分場・谷戸沢処分場(日の出町)を管理・運営している特別地方公共団体で、日の出町のみならずの協力を得ながら、多摩地域25市1町の約400万人の可燃ごみの焼却灰をエコセメントとしてリサイクルし、資源として活用。また、不燃ごみの埋立をしています。みなさまと共にごみ問題の解決に取り組んでいます。

エコセメント製品が 私たちの街で活躍しています

多摩地域のリサイクルを促進するエコセメント事業

循環組合では、全国の自治体として初の試みとなる「エコセメント事業」に取り組んでいます。
エコセメントは、可燃ごみの焼却灰を主な原料としてつくられる新しいタイプのセメントです。
これまでニッ塚処分場に埋め立てられるごみの約8割は可燃ごみの焼却灰でした。それをエコセメントの原料として再利用することで、処分場の使用期間を大幅に延ばすことができます。また、焼却灰がエコセメントとして道路や建物に生まれ変わることによって、多摩地域のリサイクルをさらに進めることができるのです。

エコセメント製品は幅広い用途で利用されています

東京たまエコセメント化施設で生産されたエコセメントは、道路の舗装材や緑石、側溝といったさまざまなコンクリートの二次製品に加工されています。
循環組合ではこうしたエコセメント製品の利用を促進するため、「東京たまエコセメント製品」を認証する制度を実施しています。同製品にはエコセメント事業のシンボルマークである「エコタロー」を刻印し、「東京たまエコセメント」が100%使用されていることを証明します。認証を受けた事業者は徐々に増加していて、平成20年3月までに21事業者となりました。
現在「東京たまエコセメント製品」はおもに多摩地域の公共事業などで利用されており、私たちが暮らす街の中で広く活躍しています。



4月に落成した福生市庁舎では、約1,700㎡に及び外構で東京たまエコセメント製品を使用。「今回の施工で、多くの部分でエコセメント製品が使用できることがわかりました。製品使用を工事入札の特記事項に加えることとなり、今後ますます活用されていきます」と語る福生市役所都市建設部の渡辺さん、葉袋さん、峰岸さん(右から)。写真の歩道部分がエコセメント製品

歩道(インターロッキングブロック)、車止め、V型側溝、いずれも東京たまエコセメント製品

地球温暖化対策に取り組んでいます

循環組合では平成19年12月に「地球温暖化対策計画」を策定、二酸化炭素など地球温暖化の原因となる温室効果ガスの抑制に配慮し、東京たまエコセメント化施設、および同一敷地内にあるニッ塚処分場の運営を行っています。
計画では平成19年度から23年度の5年間で、温室効果ガスの排出量を58トン削減することを目標としています。58トンの温室効果ガスは、樹齢50年のスギ約4000本が1年間に吸収する二酸化炭素量に相当します。循環組合ではその目標を達成するため、周辺の自然環境の保全とともに、温室効果ガスを削減する取り組みを計画的に進めています。

循環組合では平成19年12月に「地球温暖化対策計画」を策定、二酸化炭素など地球温暖化の原因となる温室効果ガスの抑制に配慮し、東京たまエコセメント化施設、および同一敷地内にあるニッ塚処分場の運営を行っています。
計画では平成19年度から23年度の5年間で、温室効果ガスの排出量を58トン削減することを目標としています。58トンの温室効果ガスは、樹齢50年のスギ約4000本が1年間に吸収する二酸化炭素量に相当します。循環組合ではその目標を達成するため、周辺の自然環境の保全とともに、温室効果ガスを削減する取り組みを計画的に進めています。



平成18年7月より本格稼働しているエコセメント化施設

ごみ減量 特集

環境への意識が高い多摩地域、さまざまな形で ごみ減量の取り組みが展開されています

多摩25市1町では、ごみ減量を促進する3R(リデュース、リユース、リサイクル)のさまざまな取り組みが展開されています。今回は数例の活動をご紹介します。



府中市 レジ袋削減の意識を広める、毎月5日の「マイバッグデー」

府中市では「ごみ減量50%」の目標を達成するため、「1万トンごみ減量大作戦」をキャッチフレーズに掲げて、さまざまなごみ減量の活動に取り組んでいます。その活動の一環として平成16年5月30日(ごみゼロの日)から実施しているのが「市民マイバッグ持参運動」です。市民、事業者、市職員で組織された実行委員会により、三位一体の運動を推進。さらに実行委員会の支援組織として公募市民が参加する「府中市民マイバッグクラブ」を設置し、より実効性を高めています。毎月5日に制定された「マイバッグデー」は、クラブのメンバーが主体となって実施している運動のひとつです。市内の商店街やスーパーマーケットの店頭でマイバッグ持参の呼びかけや持参率調査等を行っています。さらに、マイバッグデーの開始から5年が経ち、マイバッグ持参が徐々に普及しつつあるため、今年度から新たな取り組みに移行する予定で、現在その内容について検討を重ねています。



定期的に開催される「リサイクルフェスタ」などのイベント時には、マイバッグクラブがブースを出して、不要になった傘の生地を再利用したマイバッグの作り方を紹介しています。毎月5日の「マイバッグデー」には、市内4店のスーパーマーケットが協力。店頭でマイバッグ持参の呼びかけを行っています。

国立市 「ごみ減量協力店」制度を開始、再生家具や自転車の展示・販売も好評

国立市では、平成15年度から「待たなし! ごみ減量 1人1日100gのごみ減量」のスローガンのもと、買い物でのごみ減量を呼びかけています。毎年10月5日の「レジ袋NOデー」では、市職員も店頭立ち、市民と一緒にPR活動を展開。昨年度は、買い物袋持参の奨励や簡易包装など、環境に配慮した案件を満たした小売店等を認定する「ごみ減量協力店」制度もスタート。毎年恒例の「環境フェスタくたち」(10月)には、商工会や大学の環境サークルなど、30以上の団体が参加し、それぞれの立場から市民への啓発活動を展開します。「昨年は廃棄物減量等推進員による“ごみ分別クイズ”が好評でした。自治会から選出された推進員は、いわば市民と行政のパイプ役。7月から始まるプラスチック製容器包装の再資源化でもご協力いただいています」と同市ごみ減量課。市役所内にリサイクルインフォメーション(掲示板)を設けたり、リユース(再利用)を促進する家具や自転車の展示・販売などにも力を入れています。



粗大ごみの中から家具や自転車をリユースして展示・販売。「自転車は部品を交換・修理するため状態がよく、年4~5回の展示会では毎回完売するほど人気です」と同市ごみ減量課。写真は昨年の「環境フェスタくたち」の様子。

ごみ減量 みなさんのアイデア

●マイバッグで買い物
買い物には、大きなマイバッグを持って出かけます。おかげでレジ袋は、ほとんどもらわず、使わずにすむようになりました。マイエコバッグは気に入ったものを順に使っていますが、大きくて丈夫な布製のものはとくに使いやすいですね。(昭島市・29歳・フリーター)

●古傘で作ったマイバッグを活用
古傘で作ったマイバッグを使っています。布地の古傘なら、2本でマイバッグ3袋が作れます。他にもエプロン、リュックサック、お弁当入れ、自転車のハンドルカバー、そして雨用帽子も作りました。また、着物をスーツに作り直して再利用しています。もったいない精神で使えるものは使っていきたいと思います。(町田市・70歳・主婦)

●レジ袋を再利用
小さくたたんだレジ袋や、おしゃれなビニール袋をポケットに携行してはどうでしょう。(東久留米市・女性)

アイデア募集!!

あなたのごみ減量のアイデアをお寄せください。本紙に採用された方には記念品を差し上げます。
*宛て先: メールアドレスは裏表紙をご参照ください。

裁判レポート

循環組合の事業と密接な関係のある二ツ塚廃棄物広域処分場に係る事業認定取消・収用裁決取消訴訟の控訴審について、平成20年3月31日、東京高等裁判所において、東京都及び東京都収用委員会の処分はいずれも適法であるとして、控訴人らの請求を退ける判決が言い渡されました。この裁判は、東京都知事が土地収用法第20条の規定に基づいて行った事業認定は違法であり、また、東京都収用委員会が行ったトラスト共有地に関する収用裁決等は違法であるとして、それぞれその取消しを求めた訴訟です。平成17年11月25日、東京地方裁判所は、いずれの処分も適法であるとして、原告らの請求を退ける判決を言い渡しています。

調布市 庭で切り取った枝葉も徹底してリサイクル

調布市では「緊急ごみダイエット」をキャッチフレーズに掲げ、戸別収集や家庭ごみの一部有料化など、市民一人ひとりが参加するごみ減量の活動を行っています。昨年10月からは家の庭で発生する剪定枝(切り取った枝葉)を資源化するために、枝葉を細かく粉砕する「チッパー車」の派遣を開始。半年間で約12トンが処理され、現在は2週間先まで処理の予約が埋まるほど利用者が増加しています。また平成13年からは「ごみ減量・リサイクル協力店認定制度」を実施。協力店ではマイバッグ持参運動の他、回収した牛乳パックのトイレトペーパーへの再商品化や、不要となったスーツの回収など、それぞれの業態に合わせた取り組みを積極的に行い、市民にごみ減量を呼びかけています。



協力店の認定を受けたスーパーマーケットでは資源ごみの回収ボックスを設置し、市民とのコミュニケーションを図りながら、ごみ減量、リサイクルの普及を推進しています。協力店の目印となるポスター

ごみ減量レポート

「レジ袋削減の巻」

レジ袋削減の活動は、ごみ減量と環境保全を推進するために有効な対策として注目されています。今回は全国的に活発化しているレジ袋削減の動きを紹介します。

レジ袋削減の取り組みは全国各地に広がっています

昨年4月に施行された改正容器包装リサイクル法において、小売業を営む事業者を対象として、容器包装の使用の合理化のための取り組みを行うことが義務づけられました。これをきっかけに、レジ袋削減の取り組みが全国各地で活発化しており、経済産業省の調べでは、平成20年5月現在、全国1147店の小売店でレジ袋の有料化が実施されています。スーパーマーケットなどを全国展開するイオングループでは、平成3年から買物袋持参運動に取り組んでいて、平成18年度だけで1億7,500万枚のレジ袋を削減しました。平成19年1月にはジャスコ東山二条店(京都市)においてレジ袋の提供方法見直し(無料配布中止)をスタートさせ、平成20年5月末時点でグループ全体の合計73店舗に拡大しています。また、環境省では省エネ商品の購入や省エネ行動に特典を与える「エコポイント制度」の普及を推進しており、その中にはレジ袋辞退者へのポイント付加など、レジ袋削減の取り組みが含まれています。こうした動きは、今後さらに広がっていきそうです。

DATAを「たまエコニュース」の読者はレジ袋をどうしている?

「いつもやっている」「たまにやっている」「やっていない」と答えた人の推移

| 年次 | いつもやっている | たまにやっている | やっていない |
|----------|----------|----------|--------|
| 2005年6月 | 25% | 30% | 45% |
| 2005年9月 | 28% | 32% | 40% |
| 2005年12月 | 30% | 35% | 35% |
| 2006年3月 | 32% | 38% | 30% |
| 2006年6月 | 35% | 40% | 25% |
| 2006年9月 | 38% | 42% | 20% |
| 2006年12月 | 40% | 45% | 15% |
| 2007年3月 | 42% | 48% | 10% |
| 2007年6月 | 45% | 50% | 5% |
| 2007年9月 | 48% | 52% | 0% |
| 2007年12月 | 50% | 55% | 0% |
| 2008年3月 | 52% | 58% | 0% |

90%近くの人がマイバッグ持参等を心がけています!

改正容器包装リサイクル法 成立
改正容器包装リサイクル法 一部施行

搬入車両運転者講習会を実施しました

平成20年度の「二ツ塚処分場搬入車両運転者講習会」を、3月12日同処分場管理センターで行いました。循環組合事務局長の挨拶に引続き、ビデオを上映、五日市警察署・交通警備課長代理が講演を行い、終了後には、処分場への搬入時に携帯が義務づけられている講習修了証を配付しました。また、7人の優良運転者の表彰も同時に行いました。

五日市警察署による講演

搬入車両の運転者、約140名が参加しました

谷戸沢環境指導員の研修会を実施しました

循環組合では、3月11日、谷戸沢環境指導員研修会を行いました。谷戸沢処分場は、昭和59年から14年にわたり、多摩地域のごみが埋め立てられた処分場で、現在は22ヘクタールもの広大な草原などに、さまざまな動植物の息が確認されています。谷戸沢環境指導員は、地元・日の出町のボランティアの方々、谷戸沢処分場見学者を対象に谷戸沢周辺の自然について解説するもので、5月末現在9名が指導員として活動しています。

講習会の様子

自然回復が進む谷戸沢処分場